

W3C における Web 標準化活動の概要

W3C Asian Communications Officer
平川 慶之 [chibao@w3.org]

<http://www.w3.org/2004/Talks/1005-GridConsortiumJapan>

- | | |
|--|------------------------------------|
| 1. World Wide Web Consortium Presents | 15. Working Group での日々の活動 |
| 2. Early History | 16. W3C 勧告への道 |
| 3. Leading the Web to its Full Potential ... | 17. 続 W3C 勧告への道 |
| 4. W3C in 7 Points | 18. W3C 運営手順書 |
| 5. W3C 会員と W3C Team | 19. W3C "Royalty-Free" 特許方針 |
| 6. W3C 日本会員リスト | 20. これからの Web |
| 7. W3C 会員特典 | 21. W3C Web Services アクティビティ |
| 8. W3C 会員数の遷移 | 22. 主な Web Services 関連仕様 |
| 9. W3C Team | 23. SOAP/1.1 から SOAP Version 1.2 へ |
| 10. W3C Offices | 24. Web Services 関連のその他の動き |
| 11. W3C Hosts, Offices, & Team Residences | 25. 他組織との連携 |
| 12. W3C 運営体制 | 26. 一般から W3C への貢献方法 |
| 13. ドメインとアクティビティ | 27. W3C 慶應ホスト |
| 14. Working Group 一覧 | 28. お問い合わせはこちらまでお気軽に |



Early History

1990年:
欧州共同原子核研究機関 (CERN) にて Tim Berners-Lee が Web を発明



1994年10月:
CERN の協力と米国国防総省高等研究計画局 (DARPA), 欧州委員会 (EC) の援助を得て, 米国マサチューセッツ工科大学計算機科学研究所 (MIT/LCS) に Tim を招き, W3C を設立

1995年4月:
仏国立情報処理自動化研究所 (INRIA) が欧州ホストとして参加

1996年9月:
日本の慶應義塾大学が東アジアホストとして参加し, MIT/LCS, INRIA, 慶應義塾大学の3者による共同運営体制を確立

参考: [Web 略歴](#), [W3C 設立経緯](#), [W3C 日本語略年表 \(最新版\)](#)

Leading the Web to its Full Potential ...

... by developing common protocols that promote its evolution and ensure its interoperability - **W3C の使命**

目標

Web のユニバーサルアクセス, Semantic Web, 信頼できる Web

役割

Web の将来に対するビジョンやデザインの提示
Web 技術の標準化 [W3C 勧告 (Recommendation)]

方針

Web の相互運用性や発展性の確保と分散化

オープンな議論の場を提供し, Web を堅牢かつ
スケーラブルで適応性のある情報基盤に

W3C in 7 Points

W3C in 7 Points - W3C 7箇条

1. Universal Access - ユニバーサルアクセス
2. Semantic Web - セマンティック Web
3. Trust - 信頼性
4. Interoperability - 相互運用性
5. Evolvability - 発展性
6. Decentralization - 分散化
7. Cooler Multimedia! - クールなマルチメディア!

W3C 会員と W3C Team

W3C Member (W3C 会員)

W3C における世界規模での Web 技術標準化に賛同する企業, 研究所, 大学, 政府機関, NGO, NPO, ユーザ団体などの組織
2004年10月1日現在 360 組織 (うち日本会員は 33 組織)
会員の種別は Full と Affiliate の2種類 (違いは年会費のみ)

W3C Team (W3C チーム)

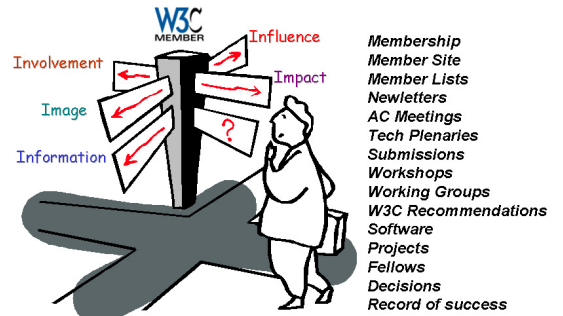
米国マサチューセッツ工科大学計算機科学人工知能研究所 (MIT CSAIL), 仏に本部を置く欧州情報処理数学研究コンソーシアム (ERCIM), 慶應義塾大学 (SFC 研究所) のいずれかのホストに所属
仕様策定に関わる技術的な作業を主導, 監督する多くの専門家
運営やその補佐, あるいは広報やシステムサポート担当者
現在 Team 71 名 (うち慶應ホストには 12 名)

W3C 日本会員リスト

株式会社ACCESS	ソニー株式会社
アンテナハウス株式会社	株式会社デジタルスケープ
株式会社イメージソース	株式会社東芝
インフォテリア株式会社	豊橋技術科学大学
インターネットアカデミー株式会社	日本障害者リハビリテーション協会
インターネット協会	日本電気株式会社
Internet Technology Research Committee	日本電信電話株式会社
ウェブソフト・インターナショナル株式会社	日本放送協会放送技術研究所
株式会社NTTドコモ	株式会社日立製作所
キャンオン株式会社	富士写真フイルム株式会社
株式会社KDDI研究所	富士通株式会社
国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所	松下電器産業株式会社
シャープ株式会社	株式会社ミツエーリンクス
財団法人情報処理相互運用技術協会	三菱電機株式会社
Sky株式会社	株式会社メディアフュージョン
セイコーエプソン株式会社	株式会社リコー
株式会社セック	

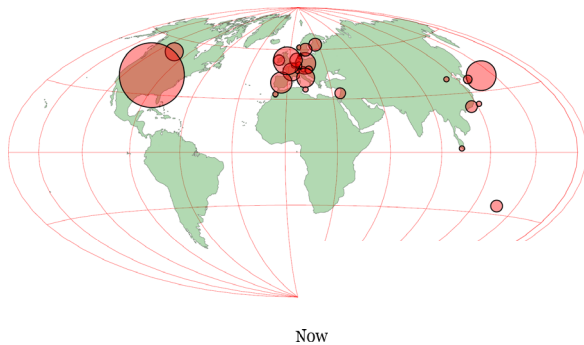
(2004年8月現在33組織)

W3C 会員特典



仕様策定への直接参加, 勧告の公開前入手, 国際標準化への貢献
 → 他組織に先駆けた技術開発・製品投入, 組織イメージの向上

W3C 会員数の遷移



W3C Team

Team の役割

技術スタッフ

ワーキンググループなどの作業グループの主導, 監督
 W3C 内外の標準化作業グループとの技術的調整
 公開講演などを通じた技術普及活動
 技術者との幅広い交流, 意見交換

運営スタッフ

会員向け会議や一般参加が可能な講演会などの開催, 運営
 W3C 以外の標準化 / 業界団体との調整 (リエゾン)
 広報, 普及活動 (報道発表)
<http://www.w3.org/> の管理運営
 Member, Team の活動に対する様々な後方支援活動

ベンダ中立であることが何よりも求められる

W3C Offices

W3C Office とは...

- ・設置地域におけるベンダ中立な W3C 普及活動拠点
- ・各地域ごとに英語に加えてローカル言語での活動を推進
- ・Team と Member の中間的な位置付け

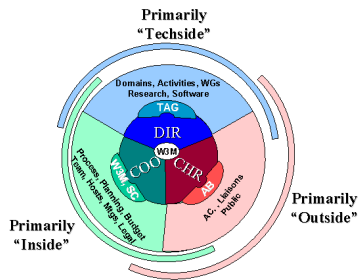
W3C Office 設置地域

オーストラリア	ベネルクス (ベルギー, オランダ, ルクセンブルグ)
フィンランド	ドイツ - オーストリア
ギリシャ	香港
ハンガリー	イスラエル
イタリア	韓国
モロッコ	スペイン
スウェーデン	イギリス & アイルランド

W3C Hosts, Offices, & Team Residences



W3C W3C 運営体制



Team 側の主なポスト

Director: Tim Berners-Lee
Chief Operating Officer (COO): Steve Bratt acting Chair
Associate Chair: Alan Kotok, 斎藤 信男 (慶應義塾大学常任理事), Daniel Dardailler
Deputy Director: 萩野 達也 (慶應義塾大学環境情報学部教授), Philipp Hoschka

Member 側の代表者組織: **Advisory Committee (AC)**, **Advisory Board (AB)**, **Technical Architecture Group (TAG)**

全体会議: **AC Meeting** (年2回), **Technical Plenary** (年1回)

W3C ドメインとアクティビティ



Architecture:

Web を支える基礎技術の改善と自動処理の推進

- XML (XML, XML Schema, XSLT, XSL, XPath, XQuery, XLink)
- Web Services (SOAP 1.2, WSDL 2.0, Choreography)
- DOM (DOM Level 1/2/3)
- 国際化
- URI (IRI)

Technology and Society:

Web 上の政策的課題に取り組む支援技術の提供

- Patent Policy
- Semantic Web (RDF, Web Ontology, Semantic Web)
- Privacy (P3P)
- XML Key Management (XKMS)

Interaction:

Web 情報に対する新しいアクセス手法の探究

- HTML (HTML 3.2/4.0/4.01, XHTML 1.0/1.1/2.0)
- XForms
- Style (CSS Level 1/2/3)
- Math (MathML 1.0/2.0)
- Graphics (PNG, SVG 1.0/1.1/1.2, WebCGM)
- Synchronized Multimedia (SMIL 1.0/2.0)
- Device Independence (CC/PP)
- Multimodal Interaction (EMMA, InkML)
- Voice Browser (VoiceXML 2.0, SRGL, SSML)

Web Accessibility Initiative (WAI):

障害を持つ人を含む全ての人が使いやすい Web の実現

- WAI International Program Office
- WAI Technical Activity (WCAG, ATAG, UAAG)

ドメイン横断的なアクティビティ:

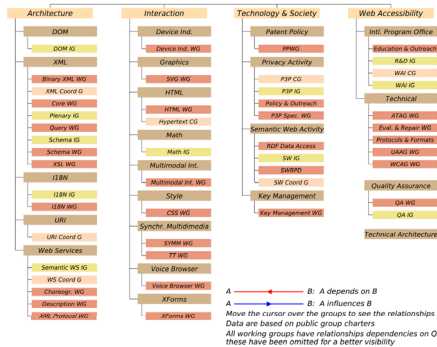
- Quality Assurance (QA)

[アクティビティ一覧](#)

W3C Working Group 一覧



W3C W3C Groups and their Dependencies



W3C Working Group での日々の活動



ワーキンググループ (WG)

具体的な技術仕様やガイドラインの策定を行う活動の最小単位
 会員からの技術者と、Team からの技術スタッフで構成
 WG 議長は会員側参加者から選出
 Team スタッフは Team Contact として議長を補佐
 会員や Team 以外の専門家の招聘も可能 (Invited Expert)
 構成人数は数名から数十名規模までさまざま

WG には世界中から技術者が参加する

- 週に1, 2回の電話会議
- 2, 3ヶ月に1回の実際に顔を合わせる face-to-face 会議
- 日常の議論や情報交換にはメーリングリスト
- 情報の蓄積や共有、閲覧には Web

W3C W3C 勧告への道



W3C の仕様は以下の5つのステップを経て、勧告として公開

1. 草案 (Working Draft) [W3C 特許方針に基づく特許調査期間]
2. 最終草案 (Last Call Working Draft)
3. 勧告候補 (Candidate Recommendation) [実装試験期間]
4. 勧告案 (Proposed Recommendation) [会員による投票期間]
5. 勧告 (Recommendation)

W3C Working Group Note:

仕様ではないが、有用な技術情報を WG として文書化したもの

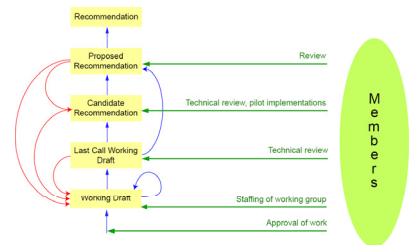
W3C Team Submission:

Team スタッフから提出された、仕様ではない技術情報文書

W3C Member Submission:

W3C 会員から提出された、仕様ではない技術情報文書
 受理されるためには一定の条件を満たす必要がある
 (ex. WS-Addressing Submission)

W3C 続 W3C 勧告への道



会員を含む一般からのレビューに基づくオープンな議論
 多数決ではなく、**合意 (Consensus)** に基づく仕様策定プロセス

W3C Process Document (2004年2月5日版)

1. Introduction
2. Members, Advisory Committee, Team, Advisory Board, Technical Architecture Group
3. General Policies for W3C Groups
4. Dissemination Policies
5. Activities
6. Working Groups, Interest Groups, and Coordination Groups
7. W3C Recommendation Track Process
8. Advisory Committee Reviews, Appeals, and Votes
9. Workshops and Symposia
10. Liaisons
11. Member Submission Process
12. Process Evolution
13. References
14. Acknowledgments

W3C 特許方針と Tim Berners-Lee による見解全文 (報道発表文)

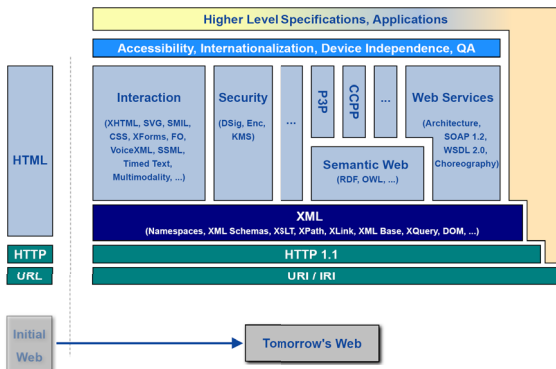
目的:
 ロイヤリティフリーに基づき, W3C 勧告の実装を可能にすること

対象者:
 特許保持者とそれ以外の全ての人双方を含む, Web の構築や利用に関わる全ての関係者

特許保持者の適用範囲:
 W3C 勧告の実装に必要な不可欠な技術に対し, 特許を保持している W3C のワーキンググループ参加組織

要求事項:
 保持している特許一式全ての放棄を要求しない代わりに, ロイヤリティフリーに基づく W3C 勧告の実装を対象者全てに認めること

例外処理:
 PAG を召集し, 該当するワーキンググループに解決案を提示



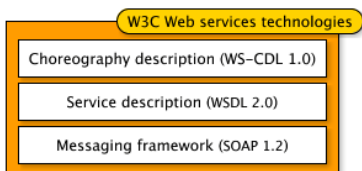
Leading Web Services to Their Full Potential...

活動内容が原則公開される公開アクティビティ (2002年1月に設置)
 Web Services の基盤技術の標準化を推進

- アクティビティの構成
- XML Protocol WG
 - Web Services Description WG
 - Web Services Choreography WG
 - Web Services CG
 - Semantic Web Services IG

Web Services Activity page
<http://www.w3.org/2002/ws>

- 勧告:
 SOAP Version 1.2
- 草案:
 Web Services Description Language (WSDL) Version 2.0
 Web Services Choreography Description Language 1.0
- WG ノート:
 Web Services Architecture



- SOAP/1.1 にはない SOAP Version 1.2 の特徴
- 堅牢かつ曖昧性のない拡張可能な処理モデル
 - 実装可能性や相互運用性が検証された仕様群
 - XML Schema 1.0, XML Base, XML Information Set といった W3C の他の標準仕様との相互運用性も確保
 - プロトコル独立なバインドメカニズムを採用し, HTTP や SMTP など様々なプロトコル上で利用可能

From SOAP/1.1 to SOAP Version 1.2 in 9 points
<http://www.w3.org/2003/06/soap11-soap12>

SOAP Version 1.2 に移行することで, 既存の XML 技術との相互運用性を実現するだけでなく, Web Services 本来の目的である, Web Services 間同士の相互運用性も確保される

W3C Web Services 関連のその他の動き

主な連携団体:

Global Grid Forum (GGF)
Object Management Group (OMG)
[Web Services Interoperability Organization \(WS-I\)](#)

最近提出された会員提案:

[Web Services Addressing \(WS-Addressing\)](#)
[WS-MessageDelivery Version 1.0](#)

ワークショップ:

[Workshop on Constraints and Capabilities for Web Services](#)
10月12-13日 於 米国カリフォルニア州 Redwood Shores

イベント参加 (終了):

IDG ジャパン主催 [Web Services Conference 2004](#)
[W3C 展示ブースポスター縮小版] (8/31 - 9/1 @ 品川)

W3C 他組織との連携

現在リエゾン関係を持つ組織一覧

注意: 必ずしも活発に活動しているというわけではありません

- | | | |
|---------------------|--------------------|-----------------------|
| . 3GPP | . GGF | . OASIS |
| . AccessBoard | . ICANN | . OMA |
| . AForum | . ICC | . OMG |
| . AILF | . IEEE | . OeBF |
| . ATIA | . IETF | . Open GIS Consortium |
| . ATSC | . INCITS | . SMPTE |
| . Apache | . IRTF/ASRG | . TOG |
| . CEN | . ISO | . Unicode |
| . DCMI | . ITIC | . VoiceXML |
| . Daisy | . ITU | . WASP |
| . EuroAccessibility | . IW3C2 | . Web3D |
| . ETSI | . JIS | . WS-I |
| . FSTC | . Liberty Alliance | . WSIS |
| . GFSI | . NIST | |

W3C 一般から W3C への貢献方法

会員でなくても W3C の活動に貢献できます

- [public mailing list](#) への参加してみる
- 仕様策定の各段階でコメントしてみる
- 技術仕様の翻訳してみる
- オープンソースソフトウェア開発へ貢献してみる
- W3C Weekly News を購読してみる
- W3C の仕様を正しく使ってみる
[W3C Markup Validator](#) (HTML, XHTML, MathML, SVG), [Checklink](#),
[CSS Validator](#), [RDF Validator](#), [P3P Validator](#), [XML Schema Validator](#), [Log Validator](#)
- W3C 仕様を正しく実装しているか [試験集 \(Test Suite\)](#) で確認

W3C W3C 慶應ホスト

- . 東アジア地区担当ホストであり、東アジア地区の W3C 窓口
- . 会員、一般向けに様々なサービスを提供
- . 日本国内向けの日本語による情報提供
- . 12 名が Team スタッフとして活動
- . 特に以下のアクティビティに注力
 - XHTML / HTML
 - XForms
 - Device Independence (DI)
 - 国際化
 - Semantic Web
 - Quality Assurance (QA)
- . イベントや講演などを通じての W3C 普及活動
- . W3C 報道発表文の日本語翻訳版の提供
(ex. [WS-CDL 1.0 草案初版の公開](#))



W3C お問い合わせはこちらまでお気軽に

World Wide Web Consortium: <http://www.w3.org>
W3C について: <http://www.w3.org/Consortium/>
初めて訪れる方は: <http://www.w3.org/2002/03/new-to-w3c>

本日のスライド:

<http://www.w3.org/2004/Talks/1005-GridConsortiumJapan>

お問い合わせ先 (ご質問や W3C への参加希望等):

慶應義塾大学 SFC 研究所 W3C
〒252-8520 神奈川県藤沢市遠藤 5322
電話: 0466-49-1170 Fax: 0466-49-1171
email: keio-contact@w3.org 担当: 平川, 高野

イベント情報:

11月23-24日: 慶應義塾大学SFC研究所主催 [オープンリサーチフォーラム \(ORF2004\)](#) にて講演会と展示ブースを出展予定
於 六本木アカデミーヒルズ40 (六本木ヒルズ森タワー40階)



W3C日本会員リスト（2004年8月現在）

株式会社ACCESS
アンテナハウス株式会社
株式会社イメージソース
インフォテリア株式会社
インターネットアカデミー株式会社
インターネット協会
Internet Technology Research Committee
ウェブソフト・インターナショナル株式会社
株式会社NTTドコモ
キヤノン株式会社
KDDI株式会社
国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所
シャープ株式会社
財団法人情報処理相互運用技術協会
Sky株式会社
セイコーエプソン株式会社
株式会社セック
ソニー株式会社
株式会社デジタルスケープ
株式会社東芝
豊橋技術科学大学
日本障害者リハビリテーション協会
日本電気株式会社
日本電信電話株式会社
日本放送協会放送技術研究所
株式会社日立製作所
富士写真フイルム株式会社
富士通株式会社
松下電器産業株式会社
株式会社ミツエーリンクス
三菱電機株式会社
株式会社メディアフュージョン
株式会社リコー

以上33組織



Leading the Web to its Full Potential...

W3C 組織概要

W3C は、Web 技術の標準化と推進を目的として、Web の発明者である Tim Berners-Lee によって 1994 年 10 月に設立された会員制の国際的な産学官共同コンソーシアムです。アメリカ合衆国マサチューセッツ工科大学計算機科学人工知能研究所 (MIT CSAIL)、フランスに本部を置く欧州情報処理数学研究コンソーシアム (ERCIM)、および日本の慶應義塾大学の三者がホスト組織として共同運営を行っています。技術仕様の勧告 (Recommendation) としての策定のほか、Web に関する情報の提供、技術開発の促進、新技術のプロトタイプ実装などに取り組んでいます。

W3C の活動

W3C では、ワーキンググループ (WG) が具体的な技術仕様やガイドラインの策定を行います。WG は、主に W3C 会員組織から参加する技術者と W3C の技術スタッフから構成されます。WG が作成した技術仕様やガイドラインは、会員組織と一般からのレビューに基づいて改善され、W3C の技術総括責任者である Tim Berners-Lee の決定により、W3C 勧告となります。それぞれの WG は以下の 4 つのドメインのいずれかに所属し、様々なトピックに取り組んでいます。

● Architecture

Web を支える基盤技術の改善と自動処理の推進

XML / XML Schema / XSL / XSLT / XPath / XML Query / XML Base / XLink / XPointer / SOAP / WSDL / DOM / URI / IRI / 国際化

● Interaction

Web 上の情報に対する新しいアクセス手法の探究

HTML / XHTML / XForms / CSS / WebCGM / PNG / SVG / SMIL / Timed Text / MathML / VoiceXML / CC/PP / Multimodal Interaction

● Technology and Society

Web 上の政策的課題に取り組む支援技術の提供

Patent Policy / Semantic Web / RDF / Web Ontology (OWL) / Privacy (P3P) / PICS / XML Key Management / XML Signature / XML Encryption

● Web Accessibility Initiative (WAI)

障害を持つ人を含むすべての人が使いやすい Web の実現

W3C 技術の検証 / ガイドライン策定 (WCAG / UAAG / ATAG) / 評価・修正ツールの評価と開発 / 普及・啓蒙活動

またドメイン横断的な WG として、W3C 技術の品質保証を確保する Quality Assurance (QA) があります。

W3C へのご参加

W3C 会員としてご参加頂くと、以下のようなメリットがあります。

- 技術仕様の提案、策定を行うワークショップ、ワーキンググループなどへの参加
- 会員専用 Web ページやメーリングリストを通じた、規格案などの最新情報の入手
- 研究員の派遣など、人的・技術的交流 (W3C Fellow プログラム)
- W3C の活動に対し、戦略的な方向付けも可能

現在、400 近い組織が世界各国から参加しています。この中にはコンピュータ産業やインターネット産業、情報産業をリードしている主要な企業が多数含まれています。日本からはこのうち約 1 割近くに相当する 30 を超える組織が参加しています。Web 技術の全世界的な発展のためには世界をリードする日本を含む東アジア地区からの会員参加が必要不可欠です。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

W3C 慶應

W3C 慶應は東アジア地区担当のホストとして、1996 年 9 月より W3C 会員および一般向けに日本語による情報提供や、Web 関連技術の普及・広報活動を行っています。技術面では特に、Semantic Web とその基盤となる RDF、XHTML/HTML や XForms、Web Services も視野に入れた Web の国際化、機器に依存しない Web アクセスを実現する Device Independence (DI)、QA などに取り組んでいます。現在 12 名がスタッフとして活動しています。

入会希望・お問い合わせなどは、下記までお気軽にご連絡ください。

慶應義塾大学 SFC 研究所 W3C

住所：〒252-8520 神奈川県藤沢市遠藤 5322

TEL：(0466) 49-1170 FAX：(0466) 49-1171

E-mail：keio-contact@w3.org URI：http://www.w3.org/

W3C 年表

1994

- 10月 W3C 設立
 - Web の発明者である Tim Berners-Lee を中心に、欧州 CERN の協力の元、米国 MIT/LCS に設立

1995

- 3月 INRIA が欧州ホストとして参加

1996

- 9月 慶應義塾大学が東アジアホストとして参加
- 10月 勧告 : PNG (Portable Network Graphics)
- 12月 勧告 : PICS (Platform for Internet Content Selection)
- 勧告 : CSS1 (Cascading Style Sheets, Level 1)

1997

- 1月 勧告 : HTML (HyperText Markup Language) 3.2
- 4月 WAI (Web Accessibility Initiative) 発足
- 8月 W3C-LA (Leveraging Actions) Initiative 発足 (~1999年)
 - 欧州委員会支援の元、欧州全域への W3C 活動の展開を目的に、イギリス、スウェーデン、ドイツ、オランダ、ギリシャ、イタリアに W3C Office を開設
- 12月 勧告 : HTML 4.0

1998

- 2月 勧告 : XML (Extensible Markup Language) 1.0
- 4月 勧告 : MathML (Mathematical Markup Language) 1.0
- 5月 勧告 : CSS2 (Cascading Style Sheets, Level 2)
- 6月 勧告 : SMIL 1.0 (Synchronized Multimedia Integration Language)
- 10月 勧告 : DOM (Document Object Model) Level 1
- 11月 香港 Office 開設

1999

- 1月 勧告 : Namespaces in XML
- 勧告 : WebCGM Profile
- 2月 勧告 : RDF (Resource Description Framework) Model and Syntax
- 5月 勧告 : Web Content Accessibility Guidelines
- 6月 勧告 : Associating Style Sheets with XML
- 7月 HTTP/1.1 が IETF Draft Standard に
- 11月 勧告 : XSLT (XSL Transformations) 1.0 / XPath (XML Path Language) 1.0
- 12月 勧告 : HTML 4.01

2000

- 1月 勧告 : XHTML (Extensible HyperText Markup Language) 1.0
- 勧告 : Authoring Tool Accessibility Guidelines
- 6月 オーストラリア Office 開設
- 10月 勧告 : XML 1.0 Second Edition
- 11月 モロッコ Office 開設
- 勧告 : DOM Level 2 Core, Events, Style, Traversal and Range, Views
- 12月 勧告 : XHTML Basic

2001

- 2月 勧告 : MathML 2.0
- 勧告 : Canonical XML
- 4月 イスラエル Office 開設
- 勧告 : Modularization of XHTML
- 5月 勧告 : XML Schema
- 勧告 : XHTML 1.1 / Ruby Annotation
- 6月 勧告 : XML Base / XML Linking (XLink)
- 7月 Document Formats 及び Interaction ドメイン発足
 - User Interface ドメインを分割
- 8月 勧告 : SMIL 2.0
- 9月 勧告 : SVG (Scalable Vector Graphics) 1.0 / SMIL Animations
- 10月 勧告 : XSL (Extensible Stylesheet Language)
- 勧告 : XML Information Set (Infoset)
- 12月 勧告 : WebCGM 1.0 Second Release

2002

- 2月 勧告 : XML-Signature Syntax and Processing
- 4月 勧告 : Platform for Privacy Preferences (P3P) 1.0
- 韓国 Office 開設
- 5月 W3C Office の担当地域を拡大
 - イギリス Office をイギリス & アイルランド Office に、ドイツ Office をドイツ-オーストリア Office に、オランダ Office をベルギー、オランダ、ルクセンブルグをカバーするベネルクス Office にそれぞれ変更
- 7月 勧告 : Exclusive XML Canonicalization 1.0
- 9月 ハンガリー Office 開設
- 10月 フィンランド Office 開設
- 11月 勧告 : XML-Signature XPath Filter 2.0
- 12月 勧告 : XML Encryption Syntax and Processing
- 勧告 : Decryption Transform for XML Signature
- 勧告 : User Agent Accessibility Guidelines 1.0

2003

- 1月 欧州ホストを INRIA から ERCIM に移管
- Document Formats ドメインを Interaction ドメインに併合
- ただし国際化と XSL WG は Architecture ドメインに移行
- 勧告 : DOM Level 2 HTML
- 勧告 : SVG 1.1 / Mobile SVG Profiles: SVG Tiny and SVG Basic
- 3月 勧告 : XPointer Framework, xmlns() Scheme, element() Scheme
- 5月 特許方針を承認
- 6月 勧告 : SOAP Version 1.2
- 7月 米国ホストを MIT/LCS から MIT CSAIL へ移管
 - MIT における LCS と AI Lab の合併に伴う事務的な変更
- 10月 勧告 : XForms 1.0 / XML Events
- スペイン Office 開設
- 勧告 : MathML 2.0 Second Edition
- 11月 勧告 : PNG Second Edition

2004

- 1月 勧告 : Composite Capability/Preference Profiles (CC/PP) 1.0
- 勧告 : DOM Level 3 Validation
- 2月 勧告 : XML 1.1 / Namespaces in XML 1.1
- 勧告 : Infoset Second Edition / XML 1.0 Third Edition
- 勧告 : RDF / OWL Web Ontology Language
- 3月 勧告 : VoiceXML 2.0
- 勧告 : Speech Recognition Grammar Specification (SRGS) 1.0
- 4月 勧告 : DOM Level 3 Core, Load and Save
- 7月 Tim Berners-Lee に英国女王が騎士の爵位を授与
- Open Mobile Alliance (OMA) と協調関係を確立
- 9月 勧告 : Speech Synthesis Markup Language (SSML) Version 1.0

W3C 勧告に向けて策定が進む主な仕様

Proposed Edited Recommendations (勧告修正案)

XML Schema Second Edition: Part 0: Primer, Part 1: Structures, Part 2: Datatypes

Candidate Recommendations (勧告候補)

SOAP Message Transmission Optimization Mechanism
Resource Representation SOAP Header Block
XML-binary Optimized Packaging, XML Inclusions (XInclude) Version 1.0
XML Key Management Specification (XKMS 2.0), Bindings
CSS3 modules: Basic User Interface, Paged Media, Color, Ruby, Text, Selectors, Media Queries, CSS2 revision 1, CSS: Print Profile, TV Profile 1.0, Mobile Profile 1.0
XHTML-Print, XForms 1.0 Basic Profile, XML Fragment Interchange

Working Drafts in Last Call (最終草案)

Architecture of the World Wide Web, First Edition
Mobile SVG Profile: SVG Tiny, Version 1.2
Web Services Description Language (WSDL) Version 2.0
VoiceXML 2.1, Voice Browser Call Control: CCXML Version 1.0
Character Model for the World Wide Web 1.0: Fundamentals
XQuery 1.0 and XPath 2.0 Formal Semantics, XSL Transformations (XSLT) Version 2.0
Web Services Description Requirements
CSS3 modules: Backgrounds, Fonts, Web Fonts

World Wide Web Consortium (W3C) 会員参加手続きのご案内 (参考資料)

W3C への参加を希望される場合は本紙を参考にお手続き下さい。本紙は Web 上に掲載されている正規の参加手続きのご案内 <http://www.w3.org/Consortium/Prospectus/Joining> に基づき、一部の手続きを簡略化した日本語参考資料です。

1. W3C 会員参加お申込み手順について

- 1) Web 上に掲載されている W3C 会員参加申込書 <http://www.w3.org/Consortium/Prospectus/form> に直接必要事項をご記入の上、申込書の最後にある提出 (Submit) ボタンを押して送信して下さい

W3C 会員参加申込書の各項目へのご記入内容につきましては本紙次節を参考にして下さい。

送信完了後、申込書の 12. Submitter 欄にご記入頂いた電子メールアドレス宛に、署名以外の必要事項が全て記載された W3C 会員参加申請書 [Application for Membership in the World Wide Web Consortium] 及び W3C 会員契約書 [International World Wide Web Consortium ("W3C") Member Agreement] (英文) が送信されます。

- 2) W3C 会員参加申請書及び W3C 会員契約書をご用意し、郵便追跡システムが利用可能な配達記録郵便または書留にて、慶應義塾大学 SFC 研究所 W3C 宛まで郵送して下さい

W3C 会員参加申請書については 1 部、W3C 会員契約書については 4 部印刷し、それぞれの文書の最後にある署名欄全てにご署名とご署名日を直筆にてご記入下さい。郵送先住所は本紙の最後に記載されております。郵送の際には、日本語表記でのご連絡先や、次の 3) で必要となる請求書の郵送先、ご担当者名もお書き添え下さい。

- 3) 送付される請求書に従い、年会費を慶應義塾大学の指定銀行口座へお振込下さい

郵送された契約書類の受領確認後、年会費の請求書を郵送させていただきます。契約書につきましては、W3C の 3 ホスト組織 (慶應義塾大学, MIT, ERCIM) にてそれぞれ署名した後、そのうちの 1 部を郵送にて返送させていただきます。各ホストでそれぞれ署名を行いますので、ご返送までにお時間がかかる場合がございます。予めご了承下さい。

2. W3C 会員参加申込書ご記入内容について

W3C 会員参加申込書 <http://www.w3.org/Consortium/Prospectus/form> へのご記入内容についてご案内致します。W3C 会員参加要綱 <http://www.w3.org/Consortium/Prospectus> も併せてご参照下さい。なお W3C の公式言語は英語となりますので、大変申し訳ございませんが日本語でのご提供はしておりません。予めご了承下さい。

- 1) **Member Organization:** Preferred URI for our List of W3C Members

W3C の会員リスト <http://www.w3.org/Consortium/Member/List> に掲載される URI をご記入下さい。

- 2) **Your Organization's Interests:**

W3C の未踏分野も含め、Web に関連すると思われる分野でご興味のある分野についてご自由にご記入下さい。

- 3) **Class of Membership:**

W3C 会員には、正会員 (Full Member, 年会費:7,076,460 円), 準会員 (Affiliate Member, 年会費:707,646 円) の 2 種類の会員種別があります。会員特典上の違いは全くございません。

(1) 非営利組織, (2) 政府機関及びその関連機関, (3) 年商 50,000,000 US\$以下 の何れかを満たす場合に限り、準会員での参加が認められます。準会員でのご参加を希望される場合は、"Reason for Affiliate"欄に該当する理由 ((3) に該当する場合は昨年度の年商額) をご記入下さい。条件を満たさない場合は正会員でのご参加となります。

会員契約は原則、新規ご契約時から最初の 3 年間は自動継続となります。その後は 1 年毎に自動更新され、更新前に会員種別の確認が行われます。

- 4) **Effective Date:**

January 1st (1 月 1 日), April 1st (4 月 1 日), July 1st (7 月 1 日), October 1st (10 月 1 日) の何れかお選び頂いた日が会員契約期間開始日となります。

- 5) **Payment Method:**

"Send invoice"をご選択下さい。お振込につきましては、W3C/慶應義塾大学よりご加入期間、会費金額記載の請求書を発行致しますので、ご確認の上、銀行振込によりご送金下さい。お振込の際の振込手数料はご負担頂いております。予めご了承下さい。領収書につきましては、銀行振込の控えを以って代えさせて頂いております。別途、領収書の発行を希望される場合は、慶應義塾発行の領収書を発行させていただきます。

6) W3C Member Site Access:

W3C では会員向けの Web ページをご用意しておりますが、このページの閲覧に認証が必要となります。基本的には会員組織に所属する個人毎に必要なに応じてアカウントを発行し、パスワード認証を行います。会員組織内で利用されているグローバル IP アドレスを用いて認証する方法を追加することもできます。

IP アドレス認証を追加したい場合は”Enable IP address access”を選択し、該当する IP アドレスまたは IP アドレスの範囲を”IP address set”にご記入下さい。IP アドレス認証が不要の場合は空欄のままで結構です。

なお IP アドレス認証を追加した場合でも、認証対象外のホストからのアクセスや、個人を特定する必要があるページへのアクセス等、個人毎に発行されるアカウントとパスワードが必要となる場合がございます。

7) Select an Advisory Committee Representative:

会員組織における W3C 代表者である Advisory Committee Representative (AC Rep) の方をご記入下さい。AC Rep は会員組織内でのお立場に関係なく、会員組織における W3C 活動の代表者として活動して頂ける方であればなたでも構いません。技術的な話題を取り扱うこともございますので、その点も考慮して選出して頂くと良いでしょう。

なお以下で指定する Contract Agent, Authorizing Agent, Invoice Contact, Notices Contact の各担当者とは、兼務して頂いても、それぞれ別の方を選出して頂いても構いません。ただしそれぞれの役割は異なりますので、以下の説明の他に、会員向け FAQ <http://www.w3.org/Consortium/Prospectus/FAQ.html#ACRep> や W3C 会員契約書、またはその付属書 <http://www.w3.org/Consortium/Agreement/Appendix.html> 等をご参考に選出して下さい。

8) Contract Agent:

W3C (MIT, ERCIM, Keio) と会員契約を締結する際に実際に契約書に署名される契約責任者をご記入下さい。AC Rep 等との兼務でも構いません。7) Select an Advisory Committee Representative の説明もご参考にして下さい。

9) Authorizing Agent:

会員組織の代表者の方、または Web への掲載等 W3C の活動において会員組織名を利用する際に組織名利用の承認権を有する方をご記入下さい。7) Select an Advisory Committee Representative の説明もご参考にして下さい。

10) Invoice Contact:

請求書のやり取りをする際の会計担当者をご記入下さい。AC Rep が兼務される場合、記入欄は空欄のままで結構です。7) Select an Advisory Committee Representative の説明もご参考にして下さい。

11) Notices Contact:

契約書等の書類のやり取りをする際の担当者をご記入下さい。AC Rep または Invoice Contact が兼務される場合、記入欄は空欄のままで結構です。7) Select an Advisory Committee Representative の説明もご参考にして下さい。

12) Submitter:

W3C 会員参加申込書にご記入された方、または会員契約完了までの間、ご連絡先となる方をご記入下さい。こちらにご記入された電子メールアドレス宛に、以後のお手続きに関するご案内と、署名以外の必要事項が全て記載された W3C 会員参加申請書 [Application for Membership in the World Wide Web Consortium], 及び W3C 会員契約書 [International World Wide Web Consortium (“W3C”) Member Agreement] (英文) が送信されます。

13) Comments and Questions:

コメント、ご質問等がございましたら、ご遠慮なくご記入下さい。

なお電話番号及びファクス番号のご記入の際は、”Country Code”欄に日本の国際電話識別番号”81”を、”Number”欄には市外局番の最初のゼロを取り除いた電話番号を、それぞれご記入下さい。

本件ご照会・郵送先:

慶應義塾大学 SFC 研究所 W3C
担当: 高野, 平川 keio-contact@w3.org
〒252-8520 神奈川県藤沢市遠藤 5322
Tel: 0466-49-1170 Fax: 0466-49-1171

会員参加に関するご相談承ります。W3C 会員規約や契約手続きについてご不明な点がございましたら、上記までお気軽にお問合せ下さい。皆様の積極的なご参加を心よりお待ちしております。

Leading Web Services to their Full Potential...

W3Cでは、Web Servicesの可能性を最大限に導き出すべく、既存のWebアーキテクチャに即したWeb Servicesアーキテクチャと一連のコア技術を定義することで、その基盤の構築を目的としたWeb Servicesアクティビティを進めています。

国際化アクティビティでは、Web Servicesタスクフォースを組織し、世界中の全ての言語や文化を含めたWeb Servicesの世界的な広域利用に対し、十分な機能を備えているかを検証しています。

<http://www.w3.org/2002/ws>

Web Services

アクティビティの構成

- XML Protocol WG
- Web Services Description WG
- Web Services Choreography WG
- Web Services CG
- Semantic Web Services IG

主な技術文書

- Web Services Architecture [WG覚書] 2004.2.11
- SOAP Version 1.2 [勧告] 2003.6.24
- Web Services Description Language (WSDL) Version 2.0 [最終草案] 2004.8.3
- Web Services Choreography Description Language Version 1.0 [草案] 2004.4.27

主な連携団体

- Global Grid Forum (GGF)
- Object Management Group (OMG)
- Web Services Interoperability Organization (WS-I)

W3C Web services technologies

Choreography description (WS-CDL 1.0)

Service description (WSDL 2.0)

Messaging framework (SOAP 1.2)

<http://www.w3.org/International>

国際化

アクティビティの構成

- 国際化WG [Core TF, Web Services TF, GEO TF]
- 国際化IG

主な技術文書

- Character Model for the World Wide Web 1.0: Fundamentals, Normalization [草案] 2004.2.25
- Requirements for the Internationalization of Web Services [草案] 2003.12.17
- Web Services Internationalization Usage Scenarios [WG覚書] 2004.7.30





Leading the Web to its Full Potential...

<http://www.w3.org/>

W3Cは、Webの発展と相互運用性を確保するための共通のプロトコルを開発することによって、Webの可能性を最大限に導き出すべく、Web技術の標準化と推進を図る**会員制**の国際産業コンソーシアムです。世界各国から**400**近い組織が会員として参加しており、日本からはそのうち**33**組織が参加しています。

W3C会員特典

会員としてW3Cにご参加頂くことで次のようなメリットがあります。

- 技術仕様を策定するワーキンググループへの参加を通じた**国際的なWeb技術標準化への直接参加**
- 会員専用Webページやメーリングリストを通じた**最新仕様の入手**や業界の最新動向に基づく、他に**先駆けた戦略的な技術開発**や、国際標準に準拠した製品の**一早い市場への投入の可能性**
- 新技術の提案を通じた新たな標準化活動の立ち上げと、それに伴う**世界規模での新市場の開拓**
- 研究員や技術者の派遣を通じた、スタッフとの**人的・技術的交流**
- W3Cでの会員活動を通じた**世界規模での戦略展開**と、標準化への貢献による**組織イメージの向上**

世界の**最先端**を行く日本の技術を国際標準とするためにも、皆様の**積極的なご参加**をお待ちしております。

W3C慶應

W3Cの運営は、アメリカ合衆国 **マサチューセッツ工科大学計算機科学人工知能研究所 (MIT CSAIL)**、フランスに本部を置く **欧州情報処理数学研究コンソーシアム (ERCIM)**、日本の **慶應義塾大学SFC研究所** の3ホストが共同で行っています。

W3C 慶應は東アジア地区担当のホストとして、1996年9月よりW3C会員及び一般向けに、日本語による情報提供、Web関連技術の普及・広報活動を行っています。技術面では、**Semantic Web** とその基盤となる **RDF**、**HTML / XHTML** や **XForms**、**Web Services** も視野に入れたWebの**国際化**、機器に依存しないWebアクセスを実現する **Device Independence (DI)**、W3C技術の品質保証を確保する **Quality Assurance (QA)** などに取り組んでいます。

入会希望・お問合せはこちらまで → keio-contact@w3.org

<http://www2005.org/>

IMPORTANT DATES

Paper submission deadline:	November 8, 2004
Author notification (papers):	January 28, 2005
Final papers due:	February 28, 2005
Poster submission deadline:	February 7, 2005
Author notification (posters):	March 7, 2005
Tutorial/workshop proposals deadline:	October 11, 2004
Panel proposals deadline:	November 8, 2004

Conference: May 10-14, 2005

WWW2005 CALL FOR PAPERS

The International World Wide Web Conference Committee (IW3C2) and Keio University cordially invites you to participate in the Fourteenth International World Wide Web Conference. It will be held in Chiba, Japan at Nippon Convention Center (or better known as Makuhari Messe). It is conveniently located between Narita/Tokyo International Airport and Tokyo. The conference consists of a three-day technical program, preceded by a day of tutorials and workshops and followed by a Developers' Day.

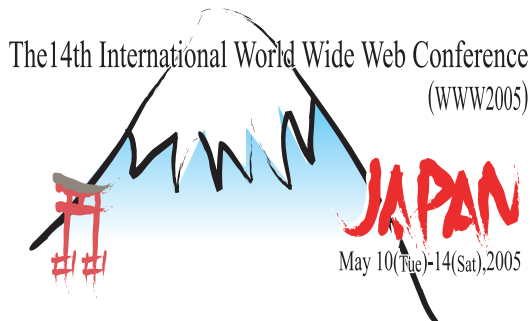
REFEREED PAPERS TRACK

WWW2005 seeks original papers describing research in all areas of the web. Papers should not have been published or be in submission at another conference or journal. Topics include but are not limited to:

- Applications
- Browsers and User Interfaces
- Data Mining
- Education
- Performance and Reliability
- Search
- Security / E-Commerce
- Semantic Web
- Web Engineering
- XML and Web Services

SPECIAL INTERESTS TRACK

- Embedded Web
- Hardware Device Innovation
- Industrial Experience
- W3C



Program Committee Co-Chairs

Fred Douglass - IBM Research
Prabhakar Raghavan - Verity, Inc.
Hideyuki Tokuda - Keio University

Tutorials/Workshops Co-Chairs

Hiroshi Hatta - OKI Electric Industry
Bebo White - Stanford Linear Accelerator Center

Conference Co-Chairs

Allan Ellis - Southern Cross University
Tatsuya Hagino - Keio University

IW3C2 Liaison to WWW2005

Vincent Shen - Hong Kong University of Science & Technology

Local Committee Chair

Nobuo Saito - Keio University

Conference Organizers

International World Wide Web Conference Committee (IW3C2)
Keio University

Conference Partners

World Wide Web Consortium
IFIP
Chiba City
Chiba Prefectural Government
E-Japan Forum
Information Processing Society of Japan
Information - technology Promotion Agency, Japan
Internet Association Japan (IAJapan)
Interoperability Technology Association for Information Processing, Japan (INTAP)
Japan Information Processing Development Corporation
Electronic Commerce Promoter Center
Japan Information Technology Services Industry Association
The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers
The Japanese Society for Artificial Intelligence

The 14th International World Wide Web Conference

